

八戸高専OGのロールモデル

社会で活躍する卒業生たち…研究室訪問編 ①

八戸高専 物質工学科 卒業生

取材日：H28.12.03

<現在を中心に…ワーク編>

- ・ 現在所属の大学学部学科学年、研究分野、研究内容など

茨城大学理学部 高エネルギー宇宙物理研究グループ

研究員(博士後期修了しての産学官連携研究員) 博士号(取材当時)

- ・ ご自身が研究室でどのようなポジションでどのような研究をしているか

宇宙関係の研究。放射線計測関係がメイン。宇宙から来る放射線を計測。
福島原発にも応用できるようなものも開発すること。

- ・ 現在の研究を始めるきっかけ

宇宙、ロケットの素材づくりに元々興味があった。

高専では宇宙の勉強はできなかったの、宇宙そのものを学びたいと思い大学進学した。

ドクター論文の研究内容は放射線測定に関すること。この研究に関わり、「ガンマ・アイ」という、ガンマ線を測定する機器を、製品化(富士電機)された。

別件で、現在、特許を申請しているものもあり、

自分の研究が製品化されたり、世の中の役に立っていることに対して、やりがいを感じている。

- ・ 大学生活(研究生生活・学業)で、一番驚いたこととは？

高専は授業がみちみち、レポートに追われるなどだったのが、大学では空き時間がたくさんあること。空き時間をどう使えば良いのか分からず、今になると有効に使えば良かったと思う。

高専は先生と学生との距離が近いが、学部の頃は遠いと思った。

レポートの質は、高専の方が高いように感じた。高専の方がきちんとしているようなところがある。

・大学生活(研究生活・学業)を続ける上で、「編入生」として一番苦労したこととは？

化学から物理への専門の変更だったので、必修ゼロからのスタートだったこと。

3年生で、1, 2年生たちと授業を受けていた。

理学部に編入してきたのは当時12、3人ほど。高専からと大学中退からと半々の割合。

専門が違う授業についていくことが大変だった。高専のときの財産が使えず、クラスメイトの過去問に救われた。

・大学生活（研究生活・学業）での楽しいことや、やりがいは？

院生で研究をするようになり、研究室の友達と研究室に入り浸ること。

研究室の先生は“チャレンジすれば”と言ってくれる人。研究室メンバーでスポーツをやるなど、良い雰囲気の研究室。

大きなプロジェクトの際は、他大学とのつながり、人の幅が広がって楽しい。

やりがいは、高い研究力を求められること。

<現在を中心に…ライフ編>

・家族構成などプライベートは？

独身。

平日は研究に専念。休日は自炊する。

ボランティアで小学生にバスケットを教えている。六年間になる。

夜間、社会人のバスケットサークルの入会がきっかけ。アシスタントコーチ。チームの存亡の危機を乗り越えた。

休日にあいているときは、メリハリが大切だと思うので、研究から離れるようにしている。
高専時代の友達とも遊ぶ。しかし、25歳までは関東に友達が沢山いたが、最近は転勤などで散ってきてしまった。

・一日の生活サイクルは？

半日(8:30~17:15)で研究。
忙しい時期では日付が変わるときも。

・プライベート（課外活動など）と研究の両立で苦労していることは？

時間の使い方。
しかし、プライベートも研究も楽しいので、苦労はない。

・プライベート（課外活動など）と研究の両立の工夫は？

メリハリをつけることで、ダラダラ研究をしないようにする。無理やりにでもプライベートを作るようにしている。
みだしなみをしっかりとすること。

・ご自身が一番大切にしていることとは？または、将来、どのような未来を描いているか教えてください。

小学校の頃からやりたい事が変わらず、好きなことをやり続けていること。
周りに流されないようにすること。

将来は、研究者として長く頑張りたい。
高専の先生は大変だと思っているが、女子学生のあこがれになれば、と思っている。

<八戸高専編>

・高専での所属学科・部活動・その他

物質工学科の物質コース卒。
バスケットボール部に所属していた。

・高専に入学したきっかけ、目的は？

父が八戸高専の一期生(電気情報工学科卒)だった。
父から高専の楽しさを植え付けられていた。
宇宙関係のことをやるために、一刻も早く専門のことをやりたかった。
入学試験は推薦試験で受かった。

・高専ではどのような教科が得意・苦手だったか？（現在にどのように関わっているか）

得意だったのは「無機化学」「物理化学」「数学」
苦手だったのは「生物」「有機化学」「物理」
数学と物理は、今の研究で使っている。

・どのような学生だったか？

変に真面目だった。手抜きが嫌い。
先生からの頼まれごとが多かった。信頼があったと思う。先生的に扱いやすかった
かもしれない。

・現在の研究を続ける上で、高専時代のどのようなことが役にたっているか？

高専のきついカリキュラムを乗り越えるところが、タイトなスケジュールで研究を乗り越えるベースになっている。
実験の基礎力は高専で学んだ。

・高専時代に「将来大切なはず」と思っていたが、いま、案外、あまり関係なかった、と思えることとは？

テストの点数としての学力。研究者としてアイデアが浮かばなければ研究者としてやっ

ていけない。点取り虫では駄目。

・後輩たちに伝えたいことは？

男女差があまりなくなってきたので、自分から道を狭めないでほしい。

やりたいことにチャレンジ、誰もやっていないことでもチャレンジを。

いろんな道があること、いろんなやり方があること、それらを知っていれば良い。

英語は大切。